

## ● 12月3日(木) 第1日目

第3回 ASEF 開催に当たり、中国船舶工業行業会 (CANSI) 会長 Mr. Guangqin Zhang、中国工业和信息化部 (Ministry of Industry and Information Technology of the People's Republic of China) Deputy Inspector Mr. Gang Cao から歓迎の挨拶が述べられた後、プログラムに添って、テーマ毎に講演と討議が行われた。



中国船舶工業行業会 (CANSI) 会長



中国工业和信息化部 Deputy Inspector

### フォーラム議題 1 大気汚染防止

議長: Mr. Weicheng Cui (Chinese Society of Naval Architects & Marine Engineers)

2.1 Outline of CO<sub>2</sub> Emissions Regulation Measures in IMO and impact on the shipbuilding Industry

講演者: Mr. Naoki Ueda (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd, Japan)

上田 直樹 氏 (三菱重工(株))

2.2 The development of ship speed verification program based on ISO 15016 methodology for EEDI

講演者: Dr. Myung-Soo Shin (Korea Ocean Research & Development Institute, Korea)

2.3 Introduction and study on new ships EEDI

講演者: Ms. Yaling Liu (Jiangnan Shipyard (Group) Co., Ltd, China)

2.4 Investigation an environment friendly propulsion system for LNG carrier

講演者: Mr. Limin Yan (MARIC-Marine Design & Research Institute of China, China)

2.5 Technology of design and construction for new-generation green Aframax tanker

講演者: Mr. Zhuyi Cai (Dalian Shipbuilding Industry Co., Ltd, China)

### 討議概要

我が国からは、三菱重工の上田氏より、IMOのGHG排出削減の枠組みと実施スケジュールが紹介されるとともに、CO<sub>2</sub> 排出削減のためには、船舶設計、電気機器および推進カスシステムに新技術を用いる必要であるとの紹介があった。これらの新技術は、温暖化対策のみだけでなく経済性向上にもつながるよう、産業界が研究を強化することが必要であることが共通認識された。中国、韓国からは、EEDI(エネルギー効率設計指標)を中心に詳細が紹介された。



大気汚染防止で講演を行う上田直樹氏

## フォーラム議題 2 バラストウォーターマネジメント

議長: Mr. Yanqing Li (China Shipbuilding Information Center)

3.1 Development of ballast water treatment system according to the IMO Convention

講演者: Mr. NAM DAE HEO (Techcross Inc. Korea)

3.2 Current circumstance of ballast water management system

講演者: Mr. Yoshiharu Numata (Hitachi Plant Technologies Co., Ltd, Japan)

沼田 好晴 氏 ((株)日立プラントテクノロジー)

3.3 BALCLOR™ Ballast Water Treatment System

講演者: Mr. Hongtian Fu (SunRui Corrosion and Fouling Control Company, China)

3.4 The Application on Regulation for Ballast Water Treatment

講演者: Mr. Changrong Lu (Shanghai Merchant Ship Design & Research Institute, China)

### 討議概要

中国、韓国から、条約の概要、バラスト水処理システムの開発状況が紹介された。我が国からは、日立プラントテクノロジー社の沼田氏より、条約発効に向けての課題、我が国でのシステム開発状況が紹介された。造船所側の出席者からは、多くの装置メーカーが出てきているが研究開発において、電力消費、コスト及び信頼性について十分な検討、考慮が行われる必要があるとの意見があった。



バラストウォーターマネジメントで講演を行う沼田好晴氏

### フォーラム議題3 塗装性能基準 (PSPC: Performance Standards for Protective Coatings)

議長: Mr. Yanqing Li (China Shipbuilding Information Center)

#### 4.1 The effects of PSPC on the shipbuilding industry

講演者: Ms. Meilin Li (Shipbuilding Technology Research Institute, China)

#### 4.2 Corrosion protection for cargo oil tanks of crude oil tankers

講演者: Mr. Masanori Yoshida (Japan Ship Technology Research Association, Japan)

吉田 正則 ((財)日本船舶技術研究協会)

#### 4.3 High performance and environmentally friendly coating system for water ballast tank of ship in the shipbuilding industries

講演者: Dr. Shon Min Young (Samsung Heavy Industries Institute of Industrial Technology, Korea)

### 討議概要

中国より、建造時にバラスタンクのPSPCを適用する上での造船サイドの問題点が紹介され、併せて日、中、韓による連携した対応が呼び掛けられた。また、韓国からは、環境にやさしい塗装システム(非溶剤塗料)の紹介がなされた。我が国からは、弊協会の吉田主任研究員より、現在IMOにて議論されている貨物油タンクの防食措置義務化の状況につき報告がなされた。また、バラスタンクのPSPCを適用していく上での課題として、塗装回数(2回塗りの問題点と、一回塗りを可能とする Self Identification 塗料の紹介)、及び塩分濃度計測(Bresle 方式の問題点と、自動計測装置の紹介)が指摘された。



PSPC で講演を行う弊協会吉田正則主任研究員

## フォーラム議題4 シップリサイクル

議長:Mr. Yanqing Li(China Shipbuilding Information Center)

### 5.1 Standardization of the Inventory List of Hazardous Materials and Material Declaration

講演者:Mr. Hirofumi Takano (Nippon Kaiji Kyokai;Class NK, Japan)

高野 裕文 氏 ((財)日本海事協会)

### 5.2 Preparation of the Inventory for New Building Ships

講演者:Mr. Muneharu Toyota (IHI Marine United Inc, Japan)

豊田 宗晴 氏 ((株)アイ・エイチ・アイ マリンユナイテッド)

## 討議概要

NKの高野氏、IHIMUの豊田氏から、NK や日本の造船業界がこれまで行ってきた条約に基づく新造船の「有害物質インベントリ作成マニュアル」作成等への取り組みが紹介された。また、新造船の有害物質インベントリ作成のトライアルで、事業者により記載方法や記載様式が異なることが判明したことから、説明マニュアルの作成や材料宣誓書(MD)の標準化といった課題を共同で解決することが必要であるとの提案がなされるとともに、アジア造船業の専門家による共同検討への参加が呼びかけられた。



シップリサイクルで講演を行う高野裕文氏（左）と豊田宗晴氏（右）

## ● 12月4日(金) 第2日目

### フォーラム議題5 目標指向型新造船基準(GBS: Goal-Based Standard)

議長: Mr. Weicheng Cui (Chinese Society of Naval Architects & Marine Engineers)

#### 6.1 Design Transparency vs. Intellectual Property Protection

講演者: Mr. O Kitamura (Mitsubishi Heavy Industries, Ltd, Japan)

北村 欧氏 (三菱重工(株))

#### 6.2 Shipbuilder's views on risk-based regulatory framework (SLA-based GBS)

講演者: Dr. Jong-Kap Lee (Maritime & Ocean Engineering Research Institute, Korea)

#### 6.3 Safety assessment for Anchor Handling Conditions of Multi-purpose Platform Work Vessels

講演者: Mr. Jun Yan (Wuchang Shipbuilding Industry Company Ltd, China)

### 討議概要

我が国から、三菱重工の北村氏より、次回MSC87での主検討項目である Ship Construction File 及び知的財産について、船主等との検討状況と造船業界が取るべき対応について説明がなされた。また、韓国からは、Risk Based Approach の合理性と今後検討項目、Safety Level Approach によるGBSの検討の必要性等につき説明がなされた。



GBS で講演を行う北村欧氏

## フォーラム議題 6 その他

議長: Mr. Weicheng Cui (Chinese Society of Naval Architects & Marine Engineers)

7.1 Maritime Regulation and Action from Industry

講演者: Mr. Yanqing Li (China Shipbuilding Information Center, China)

7.2 Prospects for India Shipbuilding Industry

講演者: Mr. Ajit Tewari (Bengal Shipyard Limited, India)

### 討議概要

中国より、国際基準が造船業界に及ぼす影響と造船業がとるべき更なるアクションについて、紹介された。また、インドからは、造船新興国であるインドが造船業において飛躍的進歩を遂げている実態や解撤業の実情について紹介された。



国際基準等について講演を行う  
Mr. Yanqing Li (中国)



インド造船業・解撤業について講演を行う  
Mr. Ajit Tewari (インド)

## フォーラム議題 7 結論及びフォローアップアクション

議長: Mr. Weicheng Cui (Chinese Society of Naval Architects & Marine Engineers)

### 討議概要

Mr. Yanqing Li (China Shipbuilding Information Center) より、第 3 回 ASEF について、各テーマの概要が述べられるとともに、以下の総括が述べられた。

- ・造船業界は今、その開発においてだけでなく船舶の安全と海洋環境の保護改善要求においても岐路に立たされている。アジアは世界で最も大きな市場シェアを有しており、造船業全体の発展に繋げるために、より積極的に重要な役割を担っていかなければならない。今回、アジア技術造船フォーラムがアジア造船諸国間の共通認識をより深めるひとつの基盤となったことは間違いない。



### 第 3 回 ASEF を総括する Mr. Yanqing Li (中国)

次回(第 4 回)ASEF の主催について、議長が他のアジア諸国も含め広く意向を求めた結果、日本が指名された。これを受け、日本から開催の用意がある旨の発表を行った。開催時期については、2010年の 10 月から 12 月の間で、他の国際会議の日程等を考慮して決められることになる。



### 次回第 4 回 ASEF を日本で開催することを表明する弊協会田中護史常務理事

## その他

第3回ASEF第1日目の夜に、中国主催の歓迎夕食会が盛大に催され、席上、弊協会から馬淵隆之会長が挨拶を行った。



挨拶を行う弊協会馬淵隆之会長

全ての議題が終了した後、Hudong-Zhonghua Shipbuilding へのテクニカルツアーが実施された。

以上

### ●本件に関する問い合わせ

(財)日本船舶技術研究協会

基準・規格グループ 田中 信行・梶塚 靖司

〒107-0052 東京都港区赤坂 2-10-9 ラウンドクロス赤坂

Tel : 03-5575-6426 Fax : 03-5114-8941 E-mail : kajitsuka@jstra.jp